

令和 7 年豊能町議会 第10回
スマートシティ特別委員会

会 議 録

令和 7 年 6 月 9 日（月）

豊 能 町 議 会

令和 7 年豊能町議会 第10回
スマートシティ特別委員会

年 月 日 令和 7 年 6 月 9 日 (月)

場 所 豊能町役場 大会議室

出席委員 4 名

秋元美智子 永谷 幸弘 寺脇 直子
管野英美子

欠席委員 なし

委員外出席 永並 啓 (議長) 中川 敦司 (副議長)

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上 浦 登	副 町 長	高 木 仁
教 育 長	板 倉 忠	政 策 監	大 西 隆 樹
総 務 部 長	入 江 太 志	生 活 福 祉 部 長	小 森 進
都 市 建 設 部 長	坂 田 朗 夫	こ ども 未 来 部 長	仙 波 英 太 朗
都 市 建 設 部 次 長	田 中 克 生	総 合 政 策 課 長	山 内 拓
総 務 課 長	田 中 久 志	建 設 課 長	吉 澤 亘

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議 会 事 務 局 長 浜 本 正 義 書 記 平 田 旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1．その他（報告）

2．その他

午前9時30分 開会

○委員長（秋元美智子君）

皆さんおはようございます。

急に暑くなってもうそろそろ梅雨の時期か
と思います。お互いさま気を付けて、行政の
充実に向けて前へ進めていきたいと思いま
す。

座らせていただきます。よろしくお願いいたしますし
ます。

ただいまの出席委員は4名であります。

定足数に達しておりますので、第10回スマ
ートシティ特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして、町長より御
挨拶をお願いいたします。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中、スマートシティ特別委
員会に御参集いただきまして誠にありがと
うございます。

本日は、3月のスマートシティ特別委員会
での委員の皆様からいただきました御意見に
係ります御報告等をさせていただくことにな
ってございます。よろしくお願いいたしますし
ます。

簡単ではございますが、開会に当たりまし
ての御挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

ではこれより本日の会議を開きます。

本日の協議事項は御手元に配付のとおりで
ございます。

本日はですね、前回委員会として求めた事
項について、先ほど町長からもお話ありまし
たように、行政側より報告していただきたい
と思います。

まず初めに、前回提出されました実績的な

ものがあるんですけど、今後の予定について
の空欄になってる部分を町のほうに入れてい
ただきました。

それについての説明をいただきたいと思
いますのですが、あともう1点、この一覧の中
で、町として今後使えるものがあるかどう
か、併せて報告していただきたいと思いま
すが、よろしいかしら。前回抜けてる部分をと
うか実績ですね、3年度分の含めて。併せ
て今後使えるものがあるかどうか、あるかど
うかってですね、本当は全部使えるようにし
ていただきたいんですけども、それも併せて
御説明をお願いいたします。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

おはようございます。総合政策課、山内で
す。よろしくお願いいたします。

それではスマートシティ事業の実績につき
まして御説明をさせていただきます。

SideBooks内、豊能町議会、スマートシ
ティ特別委員会、令和7年6月9日フォルダ
ー内のスマシ事業一覧の資料を御覧ください。

着座にて説明させていただきます。

今回お示しさせていただいております資料
につきましては、令和7年3月17日開催のス
martシティ特別委員会で御説明させていた
だきました資料を更新したのになります。

更新した箇所につきましては、表の左側に
事業費の内訳を記載させていただいておりま
すが、R6実績の列になります。

3月の時点では、R6実施中と表示させて
いただいております、今回、R6実績と変更して
おります。

各事業の内訳、金額につきましては、3月
に御説明させていただいた金額と変更はござ
いしません。

次に、表の右側の概要のところのR6の実
績になりますが、3月の時点では、計画値を
記載させていただいておりますので、実績

値に更新させていただいております。

1 番上、データ連携基盤のとよのんコンシェルジュダウンロード数でございますが、R 6 実績は4,215件となっております。

次に、見守り事業の見守りタグ配布済台数でございますが、令和 6 年度は105台、受信機数は80台となっております。

受信機につきましては、検知の不具合等で取り替えたところはございますが、設置場所を変更したところはございません。また、令和 7 年度の予算でお認めいただいております、検知機の新規の設置につきましては、現在事業者と調整中でございます。

次に、ヘルスケア事業のテレビプッシュ端末配付済台数でございますが、令和 6 年度 131台となっております。

次に、ウェアラブル端末配付済台数でございますが、令和 6 年度は273台となっております。

次に、1 日の平均歩数の増加でございますが、令和 6 年度2,000歩以上の増加となっております。

次に、通いの場のチェックイン数の増加でございますが、令和 6 年度は498回となっております。

次に子育て事業の I T 就労支援サービス平均利用者数でございますが、実績はございませんでした。

次に、デジタル事業のスマホ教室平均利用者数でございますが、令和 6 年度203人となっております。P T A 回覧板サービス平均利用者数につきましては実績はございませんでした。

次に、地域経済事業のとよのんウォレット月単位の平均利用者数でございますが、実績はございませんでした。

次に、インフラ事業の公園の利用者数の平均利用者数でございますが、令和 6 年度 1,110人となっております。

次に、デジタル行政事業の職員のデータ入力作業時間効率化でございますが、実績はございませんでした。

次に、モビリティ事業のアプリのダウンロード数でございますが、令和 6 年度136回となっております。日単位平均利用者数は一日当たり18人となっております。

次に今後の予定といたしまして、表の 1 番右側の列を御覧ください。

データ連携基盤のとよのんコンシェルジュにつきましては、データ連携を伴わず、費用の負担がない状況で令和 9 年度まで利用する予定をしております。

次に、見守り事業につきましては引き続きタグを配布し、新たに設置する受信機につきましては、秋頃までに実施する予定をしております。

次に、ヘルスケア事業のテレビプッシュにつきましては、今議会に補正予算を提案させていただいており、聴覚障害者を対象に事業を行っていく予定をしております。

ウェアラブルにつきましては、事業の実施予定はございません。

次に、子育て事業のオンライン会計スクールにつきましては、とよのんコンシェルジュと同様に令和 9 年度まで利用する予定となっております。

デジタル事業のスマホ教室につきましては、昨年度と同様に、民間事業者 2 社と実施する予定をしております。

地域経済事業のとよのんウォレットにつきましては、実施予定はございません。

インフラ事業の公園の利用者数の人流分析につきましては、令和 8 年度まで大阪大学が実施する予定をしております。

デジタル行政事業につきましては、実施予定はございません。

モビリティ事業につきましては、A I オンデマンドバスの実証運行の結果を踏まえ、夏

頃までに今後の方向性、事業内容などの判断を行ってまいりたいと考えております。

以上が、スマートシティ事業の実績報告と今後の事業予定の御説明となります。

よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

ごめんなさい、具体的に町が使えるものはどれとどれって、具体的に言ってくれたら助かります。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

費用を伴わないで事業をしていこうと思っておりますので、1番上のとよのんコンシェルジュが令和9年度まで費用負担なく利用できる状況であります。

あと見守り事業につきましては、検知機の設置をしまして引き続き事業を行っていく、費用負担を町のほうでして事業を行っていく予定をしております。

テレビプッシュにつきましては、今補正予算を提案させていただいており聴覚障害者対象に、町のほうで事業の展開を行っていく予定をしております。

子育て事業のオンライン会計スクールにつきましては、とよのんコンシェルジュのほうから申込みをするオンライン会計スクールになりますので、とよのんコンシェルジュが利用できる間の令和9年度までは費用負担なしで利用できるということで、令和9年度まで利用する予定をしております。

デジタル事業のスマホ教室につきましては、民間事業者のほうで、国の補助金を使って、豊能町のほうでスマホの教室をさせていただいておりますので、その事業の民間事業者がいてる間はスマホ教室の事業はできるのかなと考えております。

あと、インフラの公園の人流分析につつま

しても、大阪大学のほうで費用負担していただきまして令和8年度まで事業ができるというふうに伺っております。

あとモビリティにつきましては、今、AIオンデマンドバスの実証運行の検証結果をまとめておりますので、今のところ、どのようになっているところまで具体的には報告できませんけれども、何かしらの結果を検証結果をしまして、事業展開のほうをやっていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

今説明いただきましたけども、この中で、何か御意見、質問ございましたらお願いいたします。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

おはようございます。管野です。

1番最初のデータ連携基盤のとよのんコンシェルジュなんですけど、これを使っている人がいるっていうことなんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

この利用者数のアンケートとかちょっととってないので、具体的にどのような方が利用されているのかというふうにはちょっと把握できてないところあるんですけども、とよのんコンシェルジュのメニューの中からは、デマンドタクシーの時刻表であったりとか、京都タクシー予約の案内であったり、あとバスのほうも阪急バスのほうで、時刻表があったり連絡先がわかるようにしていたり、あと管野委員おっしゃっていただいているように豊能町のホームページにも連携できるようにはなっておりますので、一定使っていただいている方はいてるのかなというふうに考えて

おります。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

ここで聞くことかどうかわかりませんが、テレビプッシュのことなんですけれど、全体で5,000万円ぐらい使ってて、ウェアラブルで1万円で300台使っている。今回の予算で253万円、300台で。そしてこの差額の金額がテレビの画面が出てくる、五つぐらい項目あったと思うんですけど、ごみとかね。

そういう開発費になるわけですか。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっとごめんなさい。もう一度。

○委員（管野英美子君）

ヘルスケア事業の5,400万ぐらいなんですけど、ウェアラブルの金額が大体1万円として300台で300万。今回テレビプッシュも300台で253万という金額を聞いているんですが、ほかに何に使ったかというのと、それからテレビの画面を開発したっていうんですか、あの金額がその差額、そんなに高くかかっているということですか。

○委員長（秋元美智子君）

1,400万の予算の中の内訳ですね。はい。

わかりますか今ここで。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

ちょっと事業費のほうなんですけれども、令和4年度の事業展開のときに、令和5年度の全協で御報告させていただいている金額で言いますと、ヘルスケア事業で、子育て広場とかテレビプッシュ、ウェアラブルの開発のほうに関しまして4,693万8,000円かかっております。テレビプッシュとウェアラブルの機器の関係で743万かかっております。

今回、テレビプッシュの費用につきまして

は保守管理という形で、費用がかかるというところで補正予算の計上させていただいておりますので、その差額が設置にかかる費用であつたりとかそういった豊能町のバージョンにシステム変更するような形にかかった費用かなと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

業務委託をしてるから具体的な数字は出てこないということですね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

一応実績報告でいただいている事業としましては、先ほどお伝えしましたヘルスケア事業で、開発にかかる費用として4,693万8,000円、テレビプッシュとウェアラブルの機器に対して743万円かかったというような御報告をいただいております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと1点確認させてください、私から。例えば1番上のデータのところで、令和9年度までに継続利用するって書いてますね。

これというのは豊能町の財産としてそのまま使えるけども、費用はかからない、かかるどちらなのでしょう。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

1番上のデータ連携基盤、とよのんコンシェルジュになりますけれども、こちらはC S P F Cのほうでの総務省の補助金を交付金を利用して開発したものになりますので、それを豊能町のほうで事業展開していく中で、データ連携、デマンドタクシーの予約がそのま

まよのんコンシェルジュでできますよとか
ってというようなデータ連携するときに費用が
かかっておったものでございます。豊能町の
費用がかかってたものになりますので、そ
ういったデータ連携のほうを豊能町のほうが
まよのんコンシェルジュと何もしなければ、
今のままの状態、豊能町の負担なく、令和
9年度まで利用できるということになってお
ります。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ということは費用はかからないで令和9年
度までいけるってということね。

はい、わかりました。ほかもそうかな。

ちょっともう1点、ごめんなさい。インフ
ラなんだけども、公園、Wi-Fiがありま
したね。

たしかこれはどうなってます、そのまま。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

インフラの公園の、光風台中央公園のとこ
ろになりますけれども、Wi-Fiという
ところで令和6年度末までは、事業所のほうで
費用負担して利用できるようになっておりま
した。

今も一応できるようにはなっておるん
ですけども、その事業所のほうからは一応令和
6年度で事業が終わっておりますので、今後
どのようにするのかっていう、町の負担でW
i-Fiのほうをしていくのか、もうWi-
Fiのほうはやめていくのかというようなち
よっと話をしたいというように形で
連絡をいただいている状況でございます。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

まよのんコンシェル、使えるからってどう

するの。その先はあるんですか。

AIオンデマンドバスも市内の時刻表見れ
る、何に使うんですか。ただだから使うのは
いいんですけど、使えば使うだけ周知されて
いくんですよ。それで、未来があるんだつた
らそれでいいですよ。今後こういう展開しま
す、マイナンバーカードと一緒にすよね。今
度こんなします保険証載つけます、免許証
載つけまして次があるんだつたらいいけど、
その先がただだから取りあえず延ばしますけ
ど使わなくなるのに、置いとく意味ってどこ
にあるんですか。そしたら、もっと閉じると
き混乱しますよ。

そこの方向性というのはどういうふう
に考えておられるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

まよのんコンシェルジュにつきましては、
今アプリのほうで見られるのは、町内のスー
パーのチラシであるとか、あと、先ほどもち
よっと御説明させていただきましたデマンド
タクシーの時刻表であるとか、その予約先の
表示がされたり、あと阪急バスの路線バスの
時刻表も見れて、阪急バスのほうの表示もで
きますので、費用負担かからない部分で、そ
ういったコンシェルジュアプリの利用ができ
るのかなと考えております。

今後もし、ヘルスのほうで使うとか、何か
の関係で使うということになればその費用も
考えまして、どうしていくのかというのを考
えないといけないかなと思っておりますけれ
ども、今の段階では、豊能町として費用負担
をしてまではコンシェルジュアプリの費用展
開というのはちょっと難しいかなと考えてお
りますので、無料で使える間、アプリのほう
は使用していただけたらと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

だから、最終的に次の展開がないけどただだから使うということですよね。

そしたら、これ便利だよっていうふうにいるろ口コミで広がったとします。これを使えば、こんな時刻表見れますよって広がって、それで広がった途端に、ただじゃなくなったんでやめますということをするんですかっていうことをおっしゃってるんですよ。

もし続けるのであればこのシステムとかアプリってというのは続けて次の展開があるから、それはどんどん一つずつ少しずつ周知して、実際に行政がマイナンバーカード一生懸命やってるじゃないですか。それと一緒にのように考えてほしいだけです。

周知させるためにいろんなポイントを付けたりとかやって今度はこんな便利になります。最初抵抗ある人も徐々に使っていく人が増えていきます。

これが途中でやめるって言ったら、お金使わないですよ。混乱招くだけです。

今言われてることが何か広がって便利で広がっていきますけど、先がないんで、その先は一気にぱさっと切るってことです。

それともここから先、何か新しいことをまた考えられるんですか。そしてまた費用がかかりますけど。そこの方向性は、やめるならやめる、続けるなら続けるということを明確にしないと本当に全部中途半端になっていくような感じがしますけど。

それと、テレビプッシュも何度も言ってますけど、本当に事業計画出してください、新しい事業というのであれば。何か、既存の残りそのまま今度はこっちのほうに配布しますじゃなくて、300台のうち、聴覚障害者が100台渡す、残り200台は一旦回収して契約す

るぐらいのことはしてもらわないと、余ってるからまた使ってくださいっていうのはちょっと違うんじゃないかなと思いますよ。

○委員長（秋元美智子君）

課長答えられます。

はい、お願いします。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

とよのんコンシェルジュにつきましては、もし令和9年度までは、C S P F Cのほうで費用負担で動いている状況なので、使っていくってところなんですけれども、もし令和10年度以降、令和9年度までC S P F Cでそれ以降町のほうで使うということであればまた費用負担の関係も出てきますし、先ほど議長おっしゃるように、町としてどのような事業展開が必要かということも出てくると思いますので、8年9年かけて、C S P F Cと話しながら、やめていく方向にしていくなのか、9年度以降、費用負担を見ながら、町としてどうしていくのかというのを判断できたらと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

今の続き。

はい、お願いします。

田中課長。

○総務課長（田中久志君）

おはようございます。総務課、田中です。

テレビプッシュの新規事業ということで事業計画をとるところでございます。

進め方につきましては、先日の委員会のほうでも御説明させていただきましたとおりなんですけども、またちょっと改めまして、事業計画のほうもちょっとまとめたいなと思っておりますので、それはまた出来次第御説明をさせていただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと待ってね、テレビプッシュわかり

ました。事業計画を出してくださるという。
それであるコンシェルジュのほうは、8年9
年を検討時期というふうにこちら捉えていい
ですか。以後続けるかどうか。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

9年までは一応、何度も申し上げて申し訳
ないんですけども、はい。ちょっと使いた
いなと思っておりますけれども、議長の御指
摘のとおり、町として先がないものであれ
ば、やめていく方向に進めていかないといけ
ないと思いますし、費用の負担がどれぐらい
かかるのかというところが今ちょっと把握が
できておりませんので、あと事業展開もどの
ようにしていくときにはどれぐらいの費用か
かるかというところもちょっと把握ができて
いませんので、そういうのを見ながら、今後
決めていけたらなと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

先ほどの山内課長の説明で、コンシェルジュ
は、C S P F Cの好意みたいな感じでおっ
しゃったと思うんですけどね。

もともと9,000万円かけて、これをつくっ
た。そして、7年8年9年と使わせてもらえ
るということは、それだけ儲けてはるいうこ
とじゃないんですか。

このお金の使い方がね、また業務委託やか
ら言うて、何に何を使ったかっていうことは
教えてもらえないかもしれないけど、本当
は、先ほど議長もおっしゃったように、ここ
で一旦切ったほうがよかったんじゃないです
か。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

とよのんコンシェルジュはC S P F Cのほ
うでアプリの開発していただいているんですけ
れども、今までの間、6年度の間も何度かC
S P F Cのほうから、アプリ、コンシェルジュ
についてこういう事業展開できますよとい
うようなお話を何回かいただいております。

診療診断が相談ができるアプリがあります
よとか、コンシェルジュにデータ連携できれ
ばそういった事業展開できますよというお話
をいただいているんですけども、そのたびに
やっぱりデータ連携には費用がかかりますの
で、そこまで費用をかけて町のほうではちょ
っとできないかなというふうな返事をしてま
して、C S P F Cのほうとしてはいろんな事
業展開の中身を町のほうに持ってきて、
町のほうで何か取り組めるものがあればデー
タ連携をして、費用を、町のほうで賄っても
らうような形で、このアプリのほうは、事業
展開を考えているように感じております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ほか。

どうぞ、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

おはようございます。永谷です。

今の続きですけども、C S P F C、9年
度まで総務省の補助金を使うということで。
勘ぐりなんですけどね、これC S P F Cのた
めにね、町がわざわざ9年度までやるとい
うことしかちょっと僕ら聞いてて、そんな感じ
になってしまうんですわ。

はっきりとずばっとやめたらやめたいけ
れども、何かその辺のひっかかりがあるんか
なと勘ぐってしまいますんですけども、そ
うじゃないんですか。

C S P F Cのために、9年度まで引っ張っ
て、総務省のほうから府から何かお話があ
つてですよ、補助金を使いたいということがあ

るのかどうかという、勘ぐりですけども、
実際どうなんでしょうかね、それをちょっと
聞きたいんですけどね。

○委員長（秋元美智子君）

C S P F Cが使ってちょうだいという感じ
で来てるのか。

まだこういう、9年までいけば今度新たに
こういうサービスがありますよみたいな情報
も入ってるのかちょっとわからないんですけ
ども。

山内課長、お願いします。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

とよのんコンシェルジュにつきましてはC
S P F Cのためにというよりは、一応開発
にも一応一定のお金もかかりまして無料で使
えるのでというところが、令和9年度まで使
ったのかなというところの考えがあり
ましたので、C S P F Cのために令和9年
度まで残すというところからの発想で
はないっていうところで、先ほども管野委員
の説明のときに、C S P F Cとしては、とよ
のんコンシェルジュアプリを開発したのでそ
れにかかるサービスをすごい何か考えられて
それを町のほうに売り込みに来られるんでき
れども、町としてはデータ連携の費用とい
うのは負担できないというところをずっと申
し上げてまして、そういったところで、なか
なかコンシェルジュを利用したような展開っ
ていうのは、しにくいところはあるんですけ
れども、令和9年度までは、費用負担なく、
町のほうで使えるというところで利用してい
きたいと考えております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

これはちょっと私のほうが質問したいんで
すけど、このさっきのコンシェルジュの中に
阪急バスの時刻表とか入っているとおっしゃ
ってましたね。最近ですよ、変わったのは。

それは向こうのサービスで入れてくれたっ
て理解していいですか。ここの経費かかって
んだろうか。

9年度までは、向こうのサービスみたいな
形で豊能町の中からこれ入れてほしいあれ入
れてほしいということが言えるのかどうか、
もしサービスだとしたらね。

はい、お願いします。

山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

今まではA I オンデマンドバスの予約がで
きるとかというようなプログラムになってお
ったんですけども、今のところ、そういう
事業展開はちょっと町のほうではできないの
で、メニューも工事中みたいな表示よりか
は、豊能町の町内の交通事業の関係のものを
載せたほうが良いというところで、更新をし
たいけれどもできますかというような相談を
させていただいて、費用がかからない範囲で
やっていただくというところで、今回その時
刻表を載せたりとか、阪急バスのホームペー
ジに飛ぶようなリンクを張るような形で修正
をしていただいております。

令和9年度までの間も、もし町のほうでこ
ういったことをしたいというふうにコンシェ
ルジュのメニューを変えてほしいというお話
をさせていただいて、費用がかからない範囲
では追加とか修正はできますというような御
返事はいただいております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

無料で変えられるところもあるんですね。

わかりました。

はい、ほかございますかしら。

今のところから、見守りとかそういうとこ
で。上からでも順番かな。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

コンシェルジュは、向こうの善意なの。それと向こうはお金をもらっているっていうのは事実なの。それでなぜつながるの。これからお金返せっていうような相手ですよ、違うの。そことつながっていく。

いや我々提言出して、ここまで引っ張ったのは、K P Iをとるために3年間は一緒に事業をしないといけないからっていうのでしょ
うがないよね。そしたらそういうところと、バチバチとはやりにくいよねっていうことでここまで引っ張った。でも何か今の聞いているところではつながってつながってここで終わって、それで、どの面下げてか知らないけど、向こうから事業展開を言っているっていう。コンシェルジュを使ってこんなことをしたいですって、こんだけの実績を見せてもそれを言えるっていう、すごいなと思うんですけど。まず払えよっていうことになっちゃいますよね。

実際、このコンシェルジュは向こうの本当のボランティアなの。向こうはそれをやりますっていうことで、総務省からまたお金は入ってるんですか。そしたらその余裕ですよ、こんな。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと、ちょっと整理させてね。

このデータ連携のところ話し相手というのはどなた。代表じゃなくて、そこに関わっている企業、企業の今のお話ですか。

企業とのやりとりなのか、それともその代表のC S P F Cのやりとりなのか、ちょっと確認させてくださいそこは。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

話をしているのはC S P F Cになります。

この令和9年度まで何で使えるのかっていうところは、とよのんコンシェルジュの開発

は町の負担なくC S P F Cのほうで総務省の交付金を使って、令和5年度の交付金を使って開発しております。

総務省のK P I とるのが5年間というのが決まっております、令和9年まではC S P F CとしてK P Iをとらないといけないという期間になってまして、その間は費用負担なくK P Iをとらないといけない期間で、9年度までは使えるというふうに聞いております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと、ちょっと理解できなくなった。

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

何で向こうに付度しないといけない。

勝手に、こっちは3年の義理を果たしたわけですよ。2年間向こうが5年度の補助金で5年間のK P Iをとらないといけない、残り2年あるからそれ無料です、向こうはしないといけない状況ですよ。

こんな、未来につながらないことを、また豊能町のフィールドを使わせてあげるんですか。こんなにいろんなことされてるのに。

いやいいじゃない、もうこっちの役割は3年で終わったんだから、未来の展開もないしね、そしたらもう切った方がいいじゃないですか。

だって混乱招きますよ。広がれば広がるほど。そこら辺はもうちょっと慎重に考えないと。

○委員長（秋元美智子君）

ていうか、別途この費用では、大きなね、問題を抱えてて、相手はC S P F Cですよ。そのC S P F Cがさらに9年までK P Iとらなくちゃいけないから利用するっていうたら、何か本当にそれでいいのかなっていうのはちょっと、議長も私も、感じるとこんなですけど。

先ほど出てきたもう1個の子育てのともも9年までですね。子育てもね、全然豊能町の住民使っていない。しかもこれの入口ってというのは、コンシェルジュからだったと思いますけども。

そうですね、子育てのほうも5年間延ばすんですね。一応コンシェルジュを窓口に。

いかがですか。

はい、お願いします。山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

子育て事業のオンライン会計スクールの申込みが、とよのんコンシェルジュのメニューの中から申し込むということになっておりますので、令和9年度までの利用ということになっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

例えば今これ、全然実績ないでしょ3年間。実績ないから、もういいですと、なったときなんか、衝突するものがありますか。別にない。

先ほどのC S P F Cの9年度までのK P Iに影響するとか、そういうふうなところがあるのかな。いかがです。

はい、ちょっと暫時休憩します。

（午前10時6分 休憩）

（午前10時7分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

はい、どうぞ。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今ちょっと厳しい御意見いただいております、令和9年度まで継続利用するというところで、これC S P F Cが、国との関係でこういうことを申し出てきてるのかなというふうに思います。

子育ての部分につきましては、これは、そ

のときに同時に総務省のお金でやってるとはちょっと、私どものほうは認識しておりませんので、ここの部分がどうなのかっていうのはちょっとC S P F Cのほうと協議をさせていただく必要があるのかなというふうに思っております。ただ、コンシェルジュに引付いてきてるものなのでこのまま使うことは可能ということで今御説明を差し上げておまして、この取扱いにつきましては、今の委員の皆さんの御意見を踏まえてですね、どうあるべきかというのを改めて、これは協議させていただくことは可能かなというふうに思います。

それとあと、データ連携基盤のほうなんですけども、これ皆さんから厳しい御意見いただいております。今後の展開もないのに、だったら、何か向こうが言うてきてんのんに使うのかと、こういうことだと思います。

ここのところはですね、これC S P F Cのほうも国の補助金とってやってらっしゃる、豊能町をフィールドとしてやってらっしゃいますので、そこところ我々やっぱりこれ総務省との関係もございますので、ちょっとそこは慎重に、ちょっと対応はさせていただく必要があるのかなあというふうに思っております。一度、ここの部分についてもC S P F Cの側とですね、今の委員の皆さんの御意見を踏まえて、どう取り扱うのかというのはちょっと協議させていただく必要があるのかなというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

うがった見方をすれば、豊能町でこの事業を始めて、なおかつ総務省のこの事業やることで、総務省の補助金をとって、なおかつそこの中で、豊能町じゃなくてほかの事業も進めながら、要は豊能町を引き合いにして、何かだったら、だったらって失礼な言い方かな、向こうにとってみたら。

豊能町は何か、いい材料というのか。豊能町がやってきたからこそ、総務省からの補助金をとれたと、CS PFCにしてみたら。

何かそういうふうにご利用されてるような気がしなくはないんですけどね。

はい、どうぞ。

○副町長（高木 仁君）

今、委員長のほうから御指摘いただいておりますけどこれCS PFC側から、以前に我々お金が入ってこないことについてどうなのかということで見解を求めたことがございます。

その中の相手方から返ってきてる見解書の中にもですね、CS PFC側から総務省のお金入ってやってる事業について、KPIがとれないとかそういうことになったら、豊能町さんのほうに迷惑かかるっていうのはちょっと表現はあれですけども、そういった見解書の中身もございましたので、そこんところは我々ちょっとこれ、慎重に検討はさせていく必要があるのかなというふうに思ってます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

子育て、今の話ですけど、内容的にこれについて、3年間全く申込者ゼロという形で、内容的にも全くあかんかったなという気がしますし、3年間の総括をね、必ずしてはりますやんか単年度で。総括した上でまたこれを続けるというのは僕よくわからないんですわ。

そうなると先ほどの話に返ってしまいますけれども、やめられない事情があるんだなということしか、勘ぐりしかできないんです。

はっきりと町として総括してもうやめるといふ総括をするべきじゃないかなという、全くないですやん、3年間ゼロと。

その内容によって多分申込者がなかったなという、こういう内容でやってらっしゃいま

すんで違うことを考えておれば、仮の話ですけども、出てきたんじゃないかなという気がするんですけど。

町としてしっかり総括して、はっきりとね、こういうことでできませんでしたのでやめますという、そういうことをやっぱり総括をしてほしいなという、私は気持ちであります。

このままずるずるといったら反対にね、豊能町いうたらこんなんですこんなんです、こんなんです、違うとこでまた吹聴されてね、豊能町のちょっとやっぱり威厳というのをしっかり持っていただきたいと思いますわ。言われっぱなしじゃなくってね。全くゼロですやん、これ総括が。ゼロゼロゼロ、それでまだやるということをおっしゃってますんで、ちょっとその辺のとこしっかり総括して、はっきりと考えをですね出してほしいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

今の副委員長の御意見いかがです。

私もそのとおりだと思いますし。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

この子育てのオンライン会計スクールにつきましては総務省の交付金が入っているのかどうかというところも確認して、あと今までどのような事業展開をしてきたところもちょっと私把握できてないところもありますので、一度整理をさせていただいて判断してまいりたいと思います。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

総務省が関わっているか関わってないか関係ない、うちは。町が判断すること、この3年間の実績を見て。

コンシェルジュから入ることは入るんですけど、そういうルートで3年間ゼロです

よね。

なまじ、総務省が関わっているかどうかなんて聞く必要もないと思うけどね。私は思います。

はい、議長。

○議長（永並 啓君）

今委員長言われたように、なぜ総務省の事業ごとに聞いていくの。ここまでされて。業務委託の内容ってほぼ開示されないんですよ。そしたら全部言ってくださいってなりますよ。

例えばテレビブッシュ5,000万かかって、実際に直でやろうとしたら保守管理料だけで200数十万でいけてシステムでそれだけかかるんですよ。それは適正なのかとか、いろいろ聞きたいこと山ほどある。

一旦は整理してそこで切らない限り、ずるずるずーっとこの金額で残っていきますよ。開発のこの5,000万本当に適正なんですか。コンシェルジュの9,000万適正なんですか。そこにずっと引っ張られますけどね。

それとあともうちょっと住民の混乱も考えていただきたい。CSPPFCの補助金云々の話じゃなくて、使わないものを残す、それによって、少しでも1人でも2人でも、それを利用して、便利だよなって使いました、でもやめますって言ったら混乱しませんか。使ってる側わ。

それにそういうね、時刻表とかチラシとか、そんなものは民間企業がどんどん出してくれます。それで儲かるとなれば。なくたって全然困らない。

本当にそこら辺は1回スマートシティとして、豊能町の役割のKPI3年というものが終わったんだから、そしたらそこで1回仕切って、それで改めて今までの総括する意味でもCSPPFCとしっかりと向き合って、ちゃんと、約束どおりちゃんとお金を入れてくださいねっていうのをやった上で次ですよ。

どの面下げて新しい事業展開と言ってるのかも信じられませんもん。

本当ばかにし過ぎですよ。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

このスマートシティ事業の実績なんですけれども、これ我々がデジ田の交付金もらってやった事業についてここに書かせていただいております。

データ連携基盤というのはそのうちのですね、この上のところについては、もともとCSPPFC側のほうが、このデジ田の交付金を多分もらう以前かどうか分かりませんが、ベースに総務省の補助金もらいながらつくったものであると。それで我々のお金もこれ、このほかのメニューと連携させるために、構築したという部分ございますけども。

なのでこのデータ連携基盤に関しては、私先ほど申し上げたように、やはりちょっとこの総務省というところの関わりがございますので、そこは委員の皆さんから厳しい御意見をいただいておりますのでその意見を踏まえた上で、CSPPFC側にこれをどう取り扱えば、我々としてはこう取り扱いたいけども、それはそちらのっていうんですか、総務省のほうとですね、我々のほうと我々のほうにもそれ、当然先ほど申し上げたように見解書の中で、議長のほうが恫喝されてるというような表現ございましたけども、我々のほうで一定そこは何か縛りがあるのであれば、そこはちょっと慎重に考えないといけませんしそこはちょっとデータ連携基盤に関してはちょっとお時間いただいて、我々CSPPFC側とですね協議をさせていただきたいというふうに思います。

子育てにつきましては、これ我々内閣府のデジ田交付金もらってやってる事業だというふうに思いますので、ここは我々のほうで

すね何らかの判断ができるのかなというふう
に思っております。今の委員の皆さんの御意
見を踏まえてですね、ここのところの取扱い
は、C S P F C側とですねデータ連携基盤の
今の私申し上げたような協議内容と併せてで
すね、話はさせていただきたいというふうに
思います。

よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

令和5年にね、豊能町も入れて、11億のこ
のスマートシティを続けるという話がありま
したよね。政策会議で、やめることになっ
た。

でも今、山内課長が、コンシェルジュのこ
とで、総務省から補助金が入っている。

この令和5年は豊能町を抜いて、このC S
P F Cだけが補助金をとってきて、この事業
を続けるということなんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

このとよのんコンシェルジュの開発につい
てはC S P F Cのほうで総務省の補助金、交
付金を活用して作成されたものになります。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ごめんなさい、もう一遍言って、どの部分
が総務省の。再度答弁をお願いします。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

C S P F Cが総務省の交付金を活用して作
成したのが、とよのんコンシェルジュのアプ
リの開発になります。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

この令和4年の9,000万は関係ないんです
か。令和5年にちょっと入っている金額はわ
かりませんが、別に総務省から補助金をも
らったんですか。

私たちはこの金額、3億9,000万しか聞い
てないんですけど。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

このとよのんコンシェルジュの開発につ
きましては、令和3年度の総務省の予算で、豊
能町でスマートシティ事業を行っていくため
に開発したC S P F Cが総務省の予算をとっ
て、補助金をとって、開発いたしました。

その後に令和4年度に、デジ田交付金を豊
能町がとって、それが3億9,000万の事業な
んですけど。

それで、デジ田事業をデータ連携基盤を使
って、令和4年度に事業をいたしました。

この令和5年度の部分については豊能町
は、補助金はどこの省庁からもとってなく
て、C S P F Cのほうが、同じく総務省の補
助金をですね、とよのんコンシェルジュが1
回カスタマイズといいますか、変わったと思
うんです。もともと令和3年度につくってか
ら、中をちょっとさわってましてカスタマイ
ズをしております、見た目とかもちょっと
変わったと思うんですけど、そういったこと
をするために、C S P F C側が補助金をとっ
てやったということで、開発は令和3年度、
カスタマイズ費用として5年の事業としてや
っているということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

この変わった前は、通貨があったからです
か。通貨がありましたよね。

それがもうなくなって、ここはリニューアルされたということですか。

○委員長（秋元美智子君）

というか、総務省の部分と、このデジタル田園都市の部分、はっきり出していただきたい。口頭ではわからない。

ここにある令和４年スマートシティ事業のサービスごとの内訳、この資料とも合わなくなってくるし。私のところではちょっと理解できないですし、ちょっと内訳出していただきたい、総務省の部分。

これは委員長からお願いします。

はい、よろしいですか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

そもそもＣＳＰＦＣって豊能町も入ってるんじゃないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

ＣＳＰＦＣの中に豊能町も入っております。

○委員長（秋元美智子君）

違うのに、

○委員（管野英美子君）

だったら他人事みたいに言わないでほしいし、今、秋元委員長がおっしゃったようにしっかりとこの金額も出してほしいです。

○委員長（秋元美智子君）

これは出ますね。

どの部分が総務省でどの部分が。

はい、お願いします。

○副町長（高木 仁君）

ここに書かせていただいているのはこれは内閣府のデジ田の交付金のお金でございます。

これとは別に、ＣＳＰＦＣ側が、総務省の補助金を使ってやった事業があるということになってまいりますので、その費用をこちら

のほうに、この委員会でまた改めて御提示させていただくということでございますので、ちょっとこれはＣＳＰＦＣに我々も入ってるというところを御指摘いただけてますけども、これも改めてちょっと申し入れさせていただいて、何らかの形で御報告させていただくということでさせていただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

豊能町からお金が入ってなくてもフィールドは豊能町で、私たち議員は住民からいろんなことを聞かれるんです。テレビプッシュも使ってないから持って帰ってって言って、１台持って帰ったし。

だからしっかりと説明いただかないと、私たちは住民に説明できません。

お願いします。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと１点確認させてくださいね。

今の総務省の関係なんですがこのデジタルのところのスマホ教室ありますわね。このところに総務省の補助金を活用してってありますけども、これは豊能町が総務省の補助金を活用するってことね。ＣＳＰＦＣのこのお金じゃないですね。

はい、お願いします。

○副町長（高木 仁君）

このお金については企業側が、また別の、このスマホ教室をやられた事業さんが、別に補助金としてこられてやったものでございますので、町でもないしＣＳＰＦＣでもないということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

補助金としては町の予算書に載ってそのまま企業のほうへ、企業さんのほうへ行くっていう形じゃなくて、直接行くということですね。

ちょっとそこだけ確認します。

○副町長（高木 仁君）

今、委員長おっしゃった直接行くということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

先ほどのテレビプッシュなんですけど、令和4年の5年、6年実績、131、131、131で出てるんですけど、これ、単年度で同じ数字の131台で合計393台でいいんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

このテレビプッシュの131台はその年度でテレビプッシュを御利用されてるといいますか、の数になりますので、合計ではなくて、131台がマックス、全てということになります。

○委員長（秋元美智子君）

はい、副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

わかりました。

下のウェアラブルにしたって最終的には273台が合計数ということですね。

131台の中で実際使ってらっしゃる方というのはわかるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

時間かかるようでしたら暫時休憩いたしますが。

はい、暫時休憩いたします。

（午前10時25分 休憩）

（午前10時28分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

はい、休憩前に引き続き会議を開きます。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

今ちょっと最新の稼働台数はちょっと今確認中なんですけれども、今わかっているところでは、令和6年の5月の20日の時点では配布台数、設置台数が131台に対しまして、稼働台数は101台というふうに報告を受けております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

3月ぐらいだったと思うんですけど、利用者にテレビプッシュ、アンケートをとられたと思うんですね、引き続き使いたいという人もいたというのを聞いてるんですけども。

そのところの総括っていうのはしっかりできているんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

今年の3月にテレビプッシュ、3年間のモニター利用された方々にアンケートのほうを実施いたしました。アンケート、回答率として58%ということでした。

結果につきましては、日常的に御利用されているという方は32%、それから半数以上ですね56%の方が引き続き利用したいというふうなまず結果がございました。こういった情報を見ているのかとかあるいはこういった情報を期待しているのかというところにつきまして、防災情報を見ているという声が、防災防犯ですね、そういったことを見ているという声が多くありまして、災害時の情報伝達手段として有用性があるのではないかという判断をいたしまして、今回、新たな事業を立ち上げたいというふうな一定検証しております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

そのアンケートの書き方がわからへんからってお手伝いしたんですけども、引き続き使いたいという項目の中で、無料とか何も書いてなかったんですね。その分析はできないでしょ。そこをどうするんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

アンケートでお聞きできなかった部分、あるかと思います、思っております。

そこにつきましてはですね、改めてモニターの方に、継続利用の確認ということで、有料無料の部分なんですけども、そちらのほうもですね判断を町のほうで有料でいくということであればそれを判断してですね、それをモニターの方に再度、お知らせをして、それでも利用されるのかどうかというところをお聞きしまして、事業のほうを進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと待って。

はい、議長。

○議長（永並 啓君）

ここに書いてるのは、はけた台数しか書いてない。じゃなくて、デジタルって言ったら、どこに誰がどの時間にこういう情報にアクセスしました。今ネットで何か情報アクセスしたらそれにこの人はこんなに関心があるんだなあって言って、それに関する情報がどんどん来るんですよ。企業から何か提供されないんですか。何かとってもアナログなアンケートをとってはりますけど。

例えばテレビブッシュの画面が出てきます、何時に何人の方がこれだけアクセスしました、防災の警報が出ました、何人の方が見られました、日とか全部でわかるはずなんです。そこら辺は全部企業が抱え込むんです

か。住民のことですよ。

豊能町の住民はどういったところに関心があるんだなというのを十分こちらが知るすごいチャンスなんです。でもその中身の部分は全く教えてもらえないんですか。

そこをちょっと確認させてください。

○委員長（秋元美智子君）

いかがですか。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

今回ちょっとこの131台という報告だけをさせていただいておるんですけども、そういったところについてはちょっと企業のほうからデータいただいておりますのでちょっと確認したいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

一応データとってんのかな。

○総合政策課長（山内 拓君）

稼働している状況とか、何をメニュー見ているかっていうところわかるかなと思いますのでそこは企業のほうに確認したいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長どうぞ。

○議長（永並 啓君）

それ本当にしないと何にも残りませんよ。

企業はそれを分析して、もしかしたら豊能町ではこんなところにこんな人が関心を持ってるんだと、売り込みかけるかもしれないし。下手したらそれが企業に流れて、しょっちゅうしょっちゅう電話かかってくる人がいるかもしれないし、貴重なデータなんです。それを教えないということ違和感を持たないと。

何か全部が、見守りもタグを配りました、ヘルスケアもこんだけ配りました、大事なのはそこじゃないんですよ。

それを使って、この人はヘルスケアのパン

ドだったら、どういうふうに健康を保たれたかなと、ここで異常が出て企業のほうが開知して、そこからすぐ医師につないでくれたかなと、それで重病化する前に助かることができたかなとか。防災情報がふだんは防災無線が聞こえないけどそのテレビプッシュを使うことでその防災無線が出てきました、そういうふうに何人に配って130何台のうち何人の方がアクセスして、それでその結果、災害に対して備えができたとか、そういうところを聞かないと、そこですよ大事なところは。デジタルの大事なところは。これだと何かすごい配って、終わってますよ。

そこは本当に聞かないといけないし、本当その企業本当失礼なことしてますからね。使うだけ使って、豊能町の住民にこんだけデータくださいって言って使うだけ使って、それを提示しないというのは、その時点で企業の倫理感の姿勢を疑いますけどね。

○委員長（秋元美智子君）

それはお願いします。あとで報告してください。

ほかございますか。

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

テレビプッシュまたいきますけども、131台、お聞きしまして載ってますけども、当初何台を配布する予定で今現在131台のうち使っているのは106台って聞いたんですけどね、当初何台でしたっけ。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

当初はたしか、すいません、ちょっと今記憶が曖昧なとこありまして100台、当初100台だったと思います。

高齢者世帯を中心に、モニター100世帯募集をしたというような、4年度の実績の資料

がございますので100台だったと思います。

あとは、自治会ですね各自治会のほうで募集をさせていただいたのと、健康増進事業に参加されている高齢者あるいは高齢者支援を行うNPO団体ですとか施設ですね、そういったところを中心に100台だったと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

ということは、目標に対して1.3倍いってるんですね、今ね。そういうことなんですよね、頑張っていたらいるということですね。

これで、右に書いてますけれども、6月議会に補正予算を提出と書いてありまして、この100名を予定して131台、1.3倍になってまして、これからまた新たにこういう事業を起こして事業展開を起こすということなんですけど、最終的には何名を対象に考えていらっしゃるんです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課の田中です。

予算としましては、253万円の予算の中では、300台まで、300台までの予算というところで確保したいなと思っておりまして、じゃあ、今すぐその300台、計画的にあるのかということなんですけども、今取りあえず考えておりますのはまず聴覚障害のある方、こちらにつきましては、今現在93名おられるというふうに聞いておりますので、こちらの93名の方については、いわゆるプッシュ式でお知らせ送らせていただきまして、設置のほうを進めていきたいなと。

残り210台ほどあるわけなんですけども、その分につきましては、今モニターとしてこれまで3年間モニターとして、実証実験に参加された方については改めて継続の有無を確認

認するお知らせ、条件を一定こういう条件でやりますよ継続しますかというのを示した上で、お知らせを送付してされるかどうかというところを確認していきたいなと。

あと、町の施設につきましては、町の施設とあと高齢者施設につきましては、継続してこれ18施設ございますので、こちらは継続して付けていきたいなということで今のところ考えております。

残りのまだ300台いかない部分につきましては、今後どういった方、例えば情報伝達が困難な方で考えられるのが、例えばスマートフォンをお持ちでない方であるとか、ちょっと障害者手帳までをお持ちではないけども難聴の方であるとか、そういったところをある程度拡大していくような事業展開も考えられるのかなというふうに考えております。

○委員長（秋元美智子君）

これは新規事業として、方向性作成してくださるという約束ですよ。

ですね、確認しますが。

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

今年度以降はですね、防災情報を、災害時の情報を、やっぱり誰一人取り残さないという理念のもとに、情報を流していくというところの部分を中心にですね、進めていきたいと思っております。

まず防災の観点を入れた形で、ちょっと計画のほうをつくってですね、進めさせていただきたいと思えます。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございます。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

今のメニューなんですけどね、実際に防災に特化するって言ったらまたお金がかかるんじゃないんですか。

去年の7月14日に熱中症危険レベルって言って、テレビに大きくこうやって出てるんですね。だから、今のままでも、防災っていうのはこういうふうにできてるんじゃないんですか。

だからその、今のスマートシティの議案じゃないかもしれないけど、これは6月の補正予算かもしれないけど、このままで使えるんじゃないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

メニューに関しましては、今のテレビプッシュのメニューを継承する形で考えております。

○委員長（秋元美智子君）

新規事業としてね、きちっとした計画書を出してください。そういうことを出だしにお願いしたいと思います。

ほかございますか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

モビリティのことです。

ハニタスのことですが、6月の一般質問でも、この17.7人、

○委員長（秋元美智子君）

モビリティ、あとでまとめてやりたいと思います。お願いします。

はい、議長。

○議長（永並 啓君）

テレビプッシュって、これだけのメニューをつくらないと導入できないっていう事業なの。これどこの会社もやってるなと思って。

いや本来、もうここまでのメニューがなくても通常のメニューで、この機器をつなげれば、情報を伝えますよっていうふうになってるんじゃないのかなと思うんですけど、それだったら、機械と通信料だけで広がってい

きますよね。

でも今みたいに、自治体が受けてそのメニューを組み込んで数千万かけて取り組む事業といったら、どこがやってるのかなというすごい疑問なんですよね。

本来の事業ってそういうもんなんですか。本来のメニューがあると思ってるんですよ。それだったら今の豊能町のメニューはなしにしても本来のメニューでも十分、一般的な情報は伝えることができるんじゃないかなと。

それであれば一々システムをどうのこうのしたりメニューを変えたりっていうふうな費用がなくて済みますよね。

そこはどうなんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

むしろ、今の形が本来のメニュー、もともと企業側が持ってる、本来のメニューになっておまして、豊能町がもともとこのスマートシティで導入するときに考えてたのは、データ連携基盤にいろんなサービスを接続して、データ連携し合いながらですねそのサービスの効率とか、全体の効率を上げていこうということやったんですけども、今はもうそれが、データ連携のほうはしてないような状況になりますので、企業がもともと本来提供しているサービスを、防災の観点から入れていくというようなところになっているのかなというふうに思ってます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

今のがもともとじゃお金をかけなくても今のメニューが見れてるということですね。豊能町はこの5,000万捨てたっていうだけの話ですね。データ連携をするためにメニューの

ところをつくったんではなくて、データ連携をするために、この費用をかけたっていうことですね。

防災情報はそこにはわざわざそれを言わないと入ってこない情報なんですか。一々、もうそれは普通に入ってきますよね。

そこを確認させてください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

過去にこのテレビプッシュ事業で、確かに大きなお金をかけていろんなサービスをやってきたわけなんですけども、そこにはそのデータ連携基盤に接続するっていう費用と、あとほかのサービスと連携する、例えばウェアラブルの歩数であったりとか、あとハニタスの予約であったりとか、そういったサービスをテレビプッシュのほうでできるというのはほかの自治体でやってないテレビプッシュの事業になります。これ豊能町独自の事業。

でもそれはもう、今回データ連携のほうでは接続していかないような状況の使い方になるので、本来のテレビプッシュの情報、それはもう防犯、防災そういった情報も入ってくるサービスになります。それは特にお金をかけなくても入ってくるサービスになります。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございますか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

豊能町の情報って入ってますよね、AIオンデマンド交通が走りますとか、今日は生ごみですとかいう、それも今ここに入ってるからこのまま使えるということですか。

○委員長（秋元美智子君）

田中課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

それも今流してる情報についてそのまま使えます。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございますか。

なければ1点、ちょっと過去説明あったかもしれない。

デジタルで、実績3,386万8,000円使ってますね、当初に。結果的にこの金額は使ってやったことって言えば、スマホ教室だけなんです出てきてるものは。これ、まさかスマホ教室だけではないわね、何だったかなと思ってちょっと申し訳ない。過去に遡って申し訳ないけど、もう1回内訳教えてください。

時間かかります。そしたら、あとで結構です。

この3,300万に比べたら、スマホ教室だけというのはちょっと余りにも不自然なので、お願いいたします。

はい、ほかございますでしょうか。

なければ、モビリティいこうのかなと思ってます。

あと調べてくださいね、出してくださいね、あとで今の、あとでいただくことにして、先に進みたいと思います。

モビリティの関係以外で何もなかったらモビリティにいきたいと思います。

よろしいですか。

はい、モビリティの関係で幾つかこちらも、前回質問出てますけども、改めて何で広告が小っちゃかったのかとよのんが小っちゃいままだったのか。逆にトヨタモビリティのステッカーは、宝塚市では張ってなかったのに再度豊能町に戻ってきたときは張ってあったと、何なんだというふうなことも当初のね、契約のそのものがどういうことになっていたのかなを含めて説明、前回に委員から出た疑問に対してのお答えからお願いいたします。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

トヨタモビリティのステッカーを張ることになった経緯でございますが、AIオンデマンドバスの事業につきましては、町からCS PFCに業務委託をしまして、実証運行を行うために必要なシステム、アプリなどの導入と車両の調達などの業務委託を行っております。

その中で車両の調達に当たりましては、車両がなかなか調達できない状況であったため、大阪スマートシティパートナーズフォーラムへも入っていただき大阪府も事業に関わっておりましたので、大阪スマートシティパートナーズフォーラムに関連企業として加入されておりましたトヨタのモビリティに協賛という形で入っていただき、車両を購入した経緯がございます。

トヨタモビリティのステッカー張ることになったものについては阪急バスとの間で取り決まったことになりまして、トヨタモビリティのステッカー張ることになったものでございます。

次に宝塚市のほうで、AIオンデマンドバスの実証運行のときにステッカーが張られていなかったことにつきましては、ステッカーを張ることになった経緯からスマートシティ事業、大阪スマートシティパートナーズフォーラムとの協賛の事業ではなかったため、トヨタモビリティのステッカーを張っていなかったということになります。

あと、とよのんのステッカーが大きくなることができなかった理由につきましては、豊能の今回の実証運行につきましてはちょっと準備期間がなかったっていうところと、事業者のほうで、当初使用していたステッカーをそのままステッカーのデザインをそのまま使うことになりまして、そのまま作成していただいていたのを利用することになっておりま

した。

今回、前回町で、とよのんが大きくなった分のステッカーを作成して張り直しをしたんですけども、そのとよのんの大きなステッカーに差し替えるということができなかったため、当初利用していたステッカーが張って、運行することになったものでございます。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

トヨタモビリティの買ったいきさつがそうだから、宝塚では外したっていう意味がわかりません。この車両を使って、実証実験されているわけですから、付けてあげたらいいじゃないですか。

だからなぜ、また次3月に走ったときに、今度は豊能町で張ったじゃないですか。

だから今の説明はちょっとわからないです。

○委員長（秋元美智子君）

トヨタモビリティと阪急の間の約束で張ってるわけでしょ。宝塚持ってっても同じじゃないかもしれませんかと、張つていてもいいじゃないかもしれませんかという不自然さを管野委員はおっしゃったんだと思います。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

豊能町のほうでスマートシティ事業として展開するときの車両の購入の経緯から、そういったことになりまして、トヨタモビリティのステッカーを張った経緯についてはちょっと詳しい内容までは把握できておりませんが、阪急バスとトヨタモビリティの間で取り決めたことでありまして、町のほうでの実証運行のときには張ってまして、宝塚市のほうでは、スマートシティ事業での走らせ

だっているところではないところで、トヨタモビリティのステッカーを剥がされたというふうに確認しております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

説明になってない。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

私、わかりません。

別なんですけど、車が調達できなかったっていう意味がわからなくて、議長も前、トヨタが4台用意できないはずはないっていうことだったんですけど、元から800万の予算で4台、4台用意できないということだったんじゃないんですか。

1台374万円って聞いたことがあるんで、それなりの1,600万円用意すれば4台利用できたんじゃないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

これは委託ですよ。しっかりと。

委託先が何か好き勝手やってるみたいなの。

トヨタのモビリティと阪急の話し合いっておかしいですよ、豊能町は入らなければ。

豊能町走らすための豊能町からのね、委託事業なのに。いかがですか。

これ、今の答弁というのは、先方に聞いての答弁ですか。それともこうだろうみたいな答弁ですか。確認して答弁ですか。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

このA I オンデマンドバス事業につきましては町のほうからC S P F Cのほうに業務委託をしまして、C S P F Cのほうから阪急バスのほうに委託しているような事業になっておりますので、C S P F Cと阪急バスの間に、ちょっと間についてはちょっと確認ができておりませんが、トヨタモビリティのステッカー張ることになった経緯につきま

しては阪急バスのほうに確認しております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並 啓君）

いや、結局そこが必要なんですよね。C S P F Cと阪急バスの取決めが所有権についても同じですよ。

ここでは、我々がお金を出してるからっていうふうな認識でしたけど、C S P F Cと阪急バスの取決めはどうなってるかわからない状態なんですよね。

そしたらもうお金渡すから、車の所有から調達から全部やっってくださいって言ったらこっち何も言えませんよね、文句言うのはC S P F Cにうそついたやろって言うことが言えるぐらいですよ。

その契約がわからないとこれ以上何も言えませんよね。阪急バスがどういう契約でこの車を所有したんですか、どういう契約でステッカーを張るようにしたんですかっていうところがわからない限り、ずっと我々の蚊帳の外で、C S P F Cの何かメンバーと言われるとちょっとまた混乱するんですけど。

全く外されてる状態で、これ以上この契約の話ってなかなか進まないですよ。

調達できないというのをうのみにするのも信じられないし。だって車ですよ、トヨタですよ、たくさん走ってますよ。中古であんだけの中古だったらいっぱいありますよ。

宝塚市はどれだけ負担したんですかね。この実験に車両費とか全部もう阪急バスのもう上げ膳据え膳で全部どうぞ使ってください、試しにさせてくださいでやってるのかな。

こっちなんか半端じゃない額は払ってるんで、そこがわかれば。

○委員長（秋元美智子君）

今それはすぐ答えられませんね。

じゃあ、それもあわせて、先ほどお願いし

たこととあわせて、また後ほど回答いただけますか。よろしいですか。

はい、お願いします。

はい、ほかございます。

ほかございましていうよりも、ちょっとこっちも困っちゃうんだけど。

今の御答弁いただいたものは、どことどことどことの確認をとっていただいた御答弁なのかまず教えてください。

車の調達できなかったというのはまずどこからいただいた理屈って変ですね、事情だったのか。何で阪急とトヨタモビリティの間でそういうような、勝手に広告張るような話ができるのか。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

確認しておりますのは委託先であるC S P F C、これには確認させていただいてのと、また阪急バスのほうには確認させていただいております。

それから先についてはちょっと確認をしておりますので、何ともそこは言えないんですけども、恐らく、ステッカーがどうのこうのといろいろおっしゃっていただいておりますけどこれやっぱり根っこにあるのは、800万円で新車と中古車が混在して、我々のほうで購入したというんですかね、調達したというところで、金額的にどうなのかというところが大変ちょっと我々も、そこんところC S P F Cと我々契約してますので、それから先の話については、これまでのスマートシティ特別委員会の中でもいろいろ御指摘いただいております、ずっと我々も確認してきたところでございますが、なかなか委託先のその先のところは、やっぱりその企業間の話でございますので、我々としてもなかなかそこまで、踏み入ってっていうんですか踏み込んでなかなかその確認をとることができないというところがございまして、ある一定確認

とるところにつきましても限界があるのかなというふうに思っております。

トヨタモビリティというところの会社の関係で申しますと、これまでのスマートシティ特別委員会でも何回でもお答えしてきた内容とそれほど、今、御説明してる内容も大きく変わらないのかなというふうに思っております。阪急バスのほうが、当時、今はもう車両のほうはちょっと確認させていただいてこれ町のもんやということではっきり位置づけさしていただいておりますけど、当時は阪急バスのほうが車両を調達して、阪急バスのほうが走らせたというところで、やっぱりどうしても阪急バスのほうがイニシアティブとして、何事も決めてこられたというところがありまして、町のほうがそこのところにきっちり、町が走らすということでございますので、ここのところが関与が足りなかったというところはこれまでも、反省すべき点だったということで申し上げてきたとおりでございます。

これ、なかなかこっから先の確認というのが難しいんですけども、今御答弁したような内容でですね、やっぱりこの阪急バスのほうとトヨタモビリティのほうの協議の中で、こういう結果になってきたというところがございまして、そこに我々が十分関与しなかったというところが反省すべきであったという点でございます。

以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

一般的に豊能町がどっかの事業を委託して委託先がですよ、勝手に次のどっかに何か頼んで、そこが勝手に例えば豊能町の駅前でも何でも広告立てましたみたいな、私はそういうイメージなんですよ。

それってよくあることですか。ないと思うんですよ。

この事業の中に、トヨタモビリティ、一つ

の広告宣伝ですよ。あれは。そういったものを入り込む余地ってのはどういう経緯で出てくるのか。

はい、田中課長、御説明願います。

○総務課長（田中久志君）

はい。総務課、田中です。

トヨタモビリティ新大阪は、OSP Fの大阪スマートシティパートナーズフォーラムの会員企業でございまして、我々がCSPFCに業務委託をして、このデジ田事業を行うときに、AIオンデマンド交通を走らせてくださいというのが業務委託内容やと思うんですけども、要はこのエリア、西地区のエリアの中でAIオンデマンド交通を走らせてくださいというのが委託内容や思うんですけど、ただ、CSPFCは交通事業者でないので、実際にCSPFCの企業が運転して走らすわけにはいかないで、そこは阪急さんをお願いをしましたと。

以前にもこれ資料のほう提出させてもらってると思うんですけど、CSPFCのほうから協賛金という形で、阪急バスのほうをお願いをして、そこで走らせてくださいねという内容が企業同士で行われたと。

それで車両調達するときに、どうしたらいいのかというときに、大阪府、うちのデジ田事業は大阪府のプロジェクトでもあるので、大阪府さんにも大分関与してもらってました。その中でトヨタモビリティ新大阪がOSP Fの企業会員でもあるので、大阪府さんから紹介してもらって、阪急さんとトヨタさんが交渉に入ったということで。800万円という中で新車を希望しておりましたけどもなかなかそのコロナの中で半導体不足とかっていうこともあって、2台しか新車としては調達できないという中でですね、新車2台、中古車2台という形になってしまったんですけども、2月の運行実施を間に合わせようと思いますといういろいろその運輸局への許可とか、

いろんな申請とかですねそういったもろもろが必要でありましたので、12月にはもう決めないといけないということやったんで、その段階で入る新車2台、中古車2台というところで進めたと。

トヨタモビリティ新大阪は、豊能町のA I オンデマンド交通実証実験の事業に対して協賛をしているという立場ですので、宝塚で走る際にはですね当然その車両は使えましたが、そこには当然協賛をしていないという立ち位置なので、そのステッカーについては外しているというようなことなのかなというふうに認識しております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

車は、車を買う予算は1,600万円だったんですか、800万円だったんですか、最初から。

○委員長（秋元美智子君）

予算的には当初予算的なところを尋ねてると思います。

はい、田中課長。

○総務課長（田中久志君）

総務課の田中です。

あくまでも車両というよりは、運行の協力費ということで800万円、予算としても800万円ということだったと思います。

○委員長（秋元美智子君）

委託したときにこういうことがあるって当然のことですか。

豊能町がどっかに委託したときに、その先で、いろんなところで協賛して何して、じゃあ広告宣伝あげましようみたいな、そういうの普通なんですか。そこはどうも解せないだけでも。

幾ら協賛だろう何なのと言っても、そこら辺きちっとしとかなないと。

ということよりも、そういうことも含めて

C S P F Cが認めちゃうというところも、いいですよみたいな。

この説明をお願いします。

はい、お願いします。

○総務課長（田中久志君）

総務課、田中です。

協議の段階で豊能町としてですね、委託者としてですね、十分なその協議の場に加わっていなかった、ある意味その企業同士のやりとりというところで、ある程度お任せをしていたというところは反省をしておるところでございまして、企業同士では当たり前のことなのかもしれないですけど、豊能町として、そこはもう少し協議に入っておくべきだったなというふうに考えております。

○委員長（秋元美智子君）

町にとってもまさかの事態だったんじゃないかなと。

普通ね、普通ちょっと考えられないから。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

誰が見てもとよのんのステッカーは小さいじゃないですか。

実際私つくれますよ。A4でとよのん出して、拡大してA3のラミネートやったらつくれますよ。

でも、つくる気なかったんですよ。

なぜやらないのかが聞きたいです。

○委員長（秋元美智子君）

よろしいですか。

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

とよのんのステッカーのほうの大きさなんですけども、前回の運行のときの大きさにちょっとできなくて申し訳ございませんでした。

私のほうで3月の実証運行のときに、そこまで気が付いていなかったところもありまし

て、とよのんのステッカーのところは前回、当初阪急バスのほうで作成したものを使われているところちょっと把握もし切れてなかったところもありまして、このようになりまして、あと、大きくステッカーするっていうところもできないかという話はしてたんですけども、ちょっともう運行する前日ぐらいにそんな話になりましたので、今回はちょっととよのんステッカーを大きくしたものをちょっと張って運行ということができなかったところでございます。

申し訳ございませんでした。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

私もつくれるし張る場所もたくさんあるじゃないですか。私、今回、1回しか遭遇していないんですね、おでかけくんは1日3回ぐらい見ますけど。ここ張れるじゃないですかっていうのは、車の後ろ、後ろのほうタイヤのすぐ横。やらなかったのがとても残念なんですし、もともとこれは豊能町で買った豊能町の車じゃないですか。所有権がどっち、阪急バスにあるときとないときでありますけど。

だからもっと堂々ととよのん張れたんじゃないですか。

○委員長（秋元美智子君）

はいどうぞ、管野委員。

○委員（管野英美子君）

これからは張れるんですね。

つくりましょうか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

今後、またハニタスの車両をどう扱っていくかというところもありますので、町のほうで何か運行するというところであれば、デザインであるとかそういったところも一緒に考

えて、とよのんの表示するということであればとよのんの表示も豊能町が走らせているバスっていうのがわかるような表示をして走らせていけたらと思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

実証実験をされたんですけど、300円払って乗ってはりますけど、その入金分は一般会計に入るんですかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

このハニタスの運行の運賃につきまして、京都タクシーのほうで収入をしていただいております、そのかかった費用と差額を町のほうからは京都タクシーに補助金として支払うことになっておりますので、収入としては京都タクシーのほうに入るものになっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

それは決算で上がってくるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

京都タクシーに支払う補助金の内訳として入ってくると思います。

ちょっと今、把握できてないんで御報告できないんですけども、こちらのほうで把握はできていると思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

今回3月の実証実験で、18人が乗っているというのは伺いましたが、相乗り率とか、詳しい、土日はどうだったんかとか、そういう詳しいデータは、以前はいただいていたんですけど、まだ集計ができてないということですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

ちょっとお示しするところまでの資料がまだちょっと作成中になりまして、AIオンデマンドの検証と一緒に御報告できたら、お示しできたらいいかなと思っております。

相乗り率につきましては今手元にある資料で言いますと、令和6年度が36.2%、令和5年度が19.4%、令和4年度が65.6%ということになっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

今、ハニタス4台は豊能町のものという位置づけで、どこで保管してんのかな。

お願いします。そのままにしといてもねちょっとあれだし。

はい、お願いします。山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

ハニタスの車両の覚書につきましては、阪急バスと交わしておりまして、車両の維持管理に係る部分で、営業所間の連絡にちょっと使ったりとかっていうふうに報告を聞いております。

もし車両を何かどこかで使うというところであれば、事前に町のほうに相談いただいて町の許可がない限りは走らせないというところで、覚書のほうにも書かせていただいておりますので、今車両4台については、阪急バスの中の営業所間の事務連絡という形で維持

管理のほうをしていただいております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

阪急バスが管理してんだ。

ほかよろしいですか。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

子育てのところで、パソコンが5台あったと思うんですけど、それは今どうなってるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

はい。総合政策課、山内です。

町のほうで保管をしている状態になっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

使ってるっていう意味ですか。

単に積んでいる、どちらになるのかな。

はい、お願いします。山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

この事業としてはまだちょっと使えておりませんので、今は何も使っていない状態で保管している状況になっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

この事業で買ったものを、ほかに流用はできないんですか。

もったいないじゃないですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

パソコンの購入の経緯がこの事業で使うというところで、補助金使って購入しております。

すので、5年間は事業の目的で使うというところでそれ以外ではちょっと使用できない状況となっております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ということは3年間でやめることもできないってことになります。

さっきの話じゃないですが。どうなんだろう。補助金いただいてるから難しいのかもしれないけど。

だからこの事業もやめられないって話なのかな。どうですか。

部長答えてくるのかな。

はい、お願いいたします。総務部長。

○総務部長（入江太志君）

総務部、入江です。

この補助金の関係も国費が入ってますので、これはスマシという事業だけではなくて、一般的に国の補助事業で補助目的がありますから、目的外使用というんですか、そういうこともございますので、取りあえず今はですね、そういう形で、他用途に使うということもできないわけじゃないかもしれませんが、今はそういう形で保管をしているという状況です。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ということは先ほどの、この事業、子育て3年間ゼロだからもうやめたらどうかと。

やめられませんってことですね、という質問もあるんですが。新たにです。

そこら辺りいかがですか。

はい、お願いいたします。入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

総務部、入江です。

そのようなお考えも一部考慮する必要があるかなと思っています。

事業としてはちょっと実績上がってないというところではあるんですけど、まだそこで

多用途に転用するということですね、ちょっと慎重にあるべきかなと思っておりますのでよろしくお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

もし、子育てで会計ちょっと勉強してみようかって言ったら、池田銀行の上で、そのパソコンを使わせてもらってできるっていうことですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

そのパソコンを使って学習していただくことはできるかと思えますけれども、今、池田泉州銀行ではなくて、保管しているのはハニタスラボのオアシスのほうに保管しておりますので、もし使っていただくとしたらそちらのほうになるかなと思います。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

じゃあ事業やめられない。

はい、寺脇委員。

○委員（寺脇直子君）

全体的なことなんですけども、もう今いろんな疑問点とかも質問も出てますけどね、今後モビリティもそうですけども実績があるものとか今後利用していく予定があるものとかそれぞれありますけども、企業さんとね、不明点とか出てくると思えますので、阪急バスもそうですけども、しっかりとふだんから連携をとって、こういう取組、大事な当然先ほどおっしゃった国費とかも入ってますのでね、取り組んでほしいと思います。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

要望でいいのかな。

はい、ほか質問ございます。

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

確認です。モビリティで今後の予定なんですけれども、夏頃までに判断を行う予定ということで、K P Iをこれから国のほうに報告をすると、まだしてませんよね。実際のところ、整理しているということで。

その整理、国のほうに報告をして、何らか国のほうから何かコメントというか、何か出てくるんですかね、この結果について。その結果について、いろいろ判断を行うというストーリーがあるのかどうか、ないのかどうか、お伺いしたいです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

6年度までの実績のK P I 報告させていただく中では、6年度のK P I はこれからなんですけれども、その中では特にこうしなさいというような確認というのは国のほうからはありませんでした。

今回は、令和6年度までの、今までの、令和4年から令和6年にかけてのK P I の最終報告をしなさいというような形で、最終のK P I の報告が来るのかなと思っておるんですけれども、それに対しては最終どういう形で国のほうから、何か指導が指導というか何か意見が付けられるのかっていうところはちょっと確認ができておりません。

6年度のK P I については、今月中に国のほうに報告するような形で照会が来ておりますので、その後、もし何か国のほうから連絡があるとすればそれ以降になるのかなと思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

これについては府は全く関係なし。ダイレクトに総務省との間でやってるという、そのような感じですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いします。山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

今回のデジ田事業につきましては直接国と町とのやりとりで、間には大阪府は行っておりません。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷副委員長。

○副委員長（永谷幸弘君）

ということは国からは令和6年度の最終的なK P I の総括については、夏頃までに取りまとめますよということでこの文書ということだったんですね。

一般的にどうなんですかその辺のところは、この令和6年の結果によって、総務省からの返事がどういう返事が来るというのは、予想されるんですか。これじゃもう全くできないんでやめなさいとかそういう強制的な話があるのかどうか。ただ単に判断、結果だけ見てですね、あとは町のほうで府と協力して展開していくのかどうか、その辺のところはまだ全くわからないという状況でしょうか。

○委員長（秋元美智子君）

山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

モビリティのところの今後の予定で、夏頃までに方針を決定というのはモビリティ事業に対して町の方針を決めるっていうのが夏頃までにハニタスの車両の利用の仕方とかを判断したいというところで書かせていただいております。

全体のデジタル田園都市のほうのK P I につきましては、6月末までに国のほうに町か

ら報告を出しまして、そのあとどのような形でそれで終わってしまうのか、国のほうから確認の連絡がある、内容の確認の連絡があるのかというのはちょっと今のところわからないですけれども、もしあるとすれば夏以降になるのかなと思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

私、ちょっとすいません、申し訳ない。

質問していいですか。はい、いいですか質問。

夏にね、夏頃までには、モビリティどうするか決める、もしも豊能町として取り入れましょうとなったときに、トヨタモビリティってまた張るんですか。

もう要らない、大丈夫。

協賛によって手にした車だからずーっと継続する必要があるのかなと。その確認だけ、今ここでどうこうじゃないけど。

なければいとはっきりお願いします。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今まではC S P F Cといろいろな事業を展開してきて、阪急バスにお願いしてってございましたけど、今後は町の車両で町のほうが走らせるというのが基本になりますので、そこはもう張らないということでやらしていただきたいと思います。

もし、運行するということになってまいりましたらということでございますけども、そういうことで御理解いただいたら結構かと思いい。

○委員長（秋元美智子君）

はい、今後よろしくお願いいたしますね。

ほかございますか。

なければ、終わりにしたいと思います。

ただ、はいお願いいたします。

どうぞ、山内課長。

○総合政策課長（山内 拓君）

総合政策課、山内です。

先ほどの御質問で御回答できていなかったところを御回答させていただこうと思います。

デジタル事業の、3,385万8,053円の事業の内訳なんですけれども、スマホとスマホ教室を行いましてそのためのコンテンツの作成であるとか、あと企画に対しましての費用と、あとその教室の開催費用、あとスマホのよろず相談室をしておるんですけれども、そういったところの費用に当たっております。

○委員長（秋元美智子君）

異常に高くない。

内訳聞くよ、異常に高いだったら。

企画でそこまで出す。はいはいなんて話じゃないと思うけど。

これもうちちょっとちゃんと調べてください。

企画やら何やらコンテンツやら何やら作成で、合計3,386万ってのはあんまり異常に高過ぎるので、これはまたあとでゆっくり内訳を出してください。お願いします。

せっかくお答えくださったのに申し訳ない。

はい、ほかあります。

はい、議長どうぞ。

○議長（永並 啓君）

コンシェルジュ続けるなら本当に精査してください。

初めてインストールしたんですけど、先ほどのオンライン会計スクール、どこがやるかもわからへん、どういった内容をやるかもわからへん。

取りあえずメールアドレス、個人情報を入れてとしか出てこないんですよ。こんなないですよ。

どこが受ける、やってる事業のところに飛ぶとか、リンクがあって飛ぶとか、こういうところでやるんだなこんな事業をするんだな

ってというのがわかればいいけどそれすらないのに個人情報はず求めますよ。あり得ませんよ。

本当にここ残すのはいいけどもうちょっと精査した上で残さないとトラブルになりますよ。もう僕は閉じてくれって言ってますけどね。

○委員長（秋元美智子君）

ほかにもテレビプッシュの使い方、どんなことをどんな内容で使ったか、データの分析ですね。

その企業から集めるのかな、これ企業に求めてください。こっちの委員会出た話です。

それとあと何かな、新規テレビプッシュ、新規事業だったらきちっと計画書を出していただくことと、それと何だっけな、今のデジタルの内訳と、それと総務省の事業がどうのこうの言ってますんで、CSPPFC、総務省の事業ということはもう一遍ちょっときちっと調べてお願いいたします。

あとほかにあったかな、そのぐらいかな。忘れちゃいけないけどほかにもありましたかな、お願いしたこと。

今の議長のコンシェルジュの中身。誰がどんなふうに使ってるのかちょっとその回数もできたら調べてください。

五つ、以上五つかな。よろしいですか。

早急にお返事いただくようお願いして、ほかございますでしょうか。

なければ閉じたいと思います。

よろしいですか。

はい、副町長。

○副町長（高木 仁君）

テレビプッシュの件なんですけど、これ常任委員会のときにも事業をどうすんねんということで、議長のほうから御意見いただいております、これスマートシティ特別委員会では報告というよりもですね、どっか別の全員

協議会なり何か、そういう機会を設けていただきまして、そこで御報告のほうを先にさせていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

新規事業の計画書とあわせて、今までどんな内容を使ってきたかっていうデータも出してくださるというよろしいですね、その認識で。よろしいですか。はい。

じゃあほかの3点お願いいたします。

よろしいですね。うちの委員会じゃなくていいですね。

はい、わかりました。

ではこれで本日のスマートシティ特別委員会は閉会したいと思います、よろしいでしょうか。

異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい、異議なしと認めます。

よって、本委員会は閉会することに決定いたしました。

これをもって、第10回スマートシティ委員会を閉会いたします。

町長より御挨拶をいただきたいと思います。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。スマートシティの特別委員会の閉会に当たりまして一言御挨拶をさせていただきたいと思います。

本日は本当にいろんな御意見をいただきました。

私のもですね率直な思いといたしまして、そもそもこの8事業、プラスですね、それからデジタル連携基盤、これをですねスタートさせるというときにですね私も豊能町のもですね規模にですねそのキャパシティに果たして、並行して8事業を進めるということがど

うだったのかということは別にいたしまして
ですね、令和4年のですね6月に予算化をさ
せていただいて、今まで進めてきたものでご
ざいます。

3年間のK P Iを終えましてですね、これ
から、そのK P Iをもってですね、どうして
いくかということで、スクラップ、若しく
は、新しくですねビルドしていくというよう
なことになってございますので、いわゆるア
ップデートしていくのかそれともクローズし
ていくのかというようなことになってまいり
ます。

今日はですね、総括的な御意見、それから
今後の今後に向けてのですね、御意見も多数
いただいたものでございます。

行政の継続性ということもございましてで
すね、これからもですね、この8事業の中
で、これから進めていくようなものもござい
ますので、その点はですねまた議会の皆様の
ですね、御理解と御協力をぜひともいただき
たいと思っております。

豊能町としてもですね身の丈の高さをしっ
かりですね、我々で考えましてですね、取組
を進めていきたいと思っておりますので、よ
ろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございました。

これをもちまして、第10回スマートシティ
特別委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

お疲れさまでした。

午前11時27分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 スマートシティ特別委員会

委員長